

宗内寺院紹介 91

東京教区第七部

普門山 ふもんざん大圓寺 だいえんじ

①



②



③



④



⑤

- ①本堂 ②本尊阿弥陀如来 ③文殊楼
④不動明王（左の間） ⑤不滅の法灯（右の間）

大圓寺は、第三世天台座主である慈覚大師円仁（七九四〜八六四）が開基となり、その命を受けた秀観僧都が天安二年（八五八）に寺主となったと伝わっています。その後、明治初期までに、市内の神宮寺と不動院の両末寺、さらに観音寺と神宮寺が統合され、現在の大圓寺が形づくられました。

江戸時代中期に伽藍が焼失し、その後に建立された以前の本堂は築二五〇年の建物でした。しかし、平成二十三年（二〇一一）の東日本大震災で柱が損傷したため、前第六十一世住職の発願と、現第六十二世の晋山を機に、令和五年（二〇二三）に現在の天台様式（中堂様式）の本堂と客殿が建立されました。

本尊は江戸期作の阿弥陀如来を中心に、虚空蔵菩薩と不空罽索観音が正面に祀られています。また、右の間には不滅の法灯が安置され、左の間には不動明王と慈覚・慈恵の両大師を祀って護摩が修されています。境内には護摩堂や地藏堂、文殊楼、鐘楼堂などの伽藍が配されています。

東京教区第七部
普門山 大圓寺

住 所／〒203-0051 東京都東久留米市小山2-10-1
電話番号／042-471-0042